

チャノキイロアザミウマ情報第2号

令和3年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

一部地域で多く誘殺されています（カンキツ、ブドウ）

1 発生状況

カンキツほ場に設置した黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫の誘殺数は、蒲郡市及び南知多町で多い状況です。ブドウほ場に設置した東浦町及び豊橋市では、平年並の状況です（図1）。

5月下旬にカンキツ 22 ほ場、ブドウ 13 ほ場で、ほ場周囲における本種の生息数調査（イヌマキ（防風垣）10 新梢の払い落とし虫数）を行った結果、発生量は概ね平年並でした。

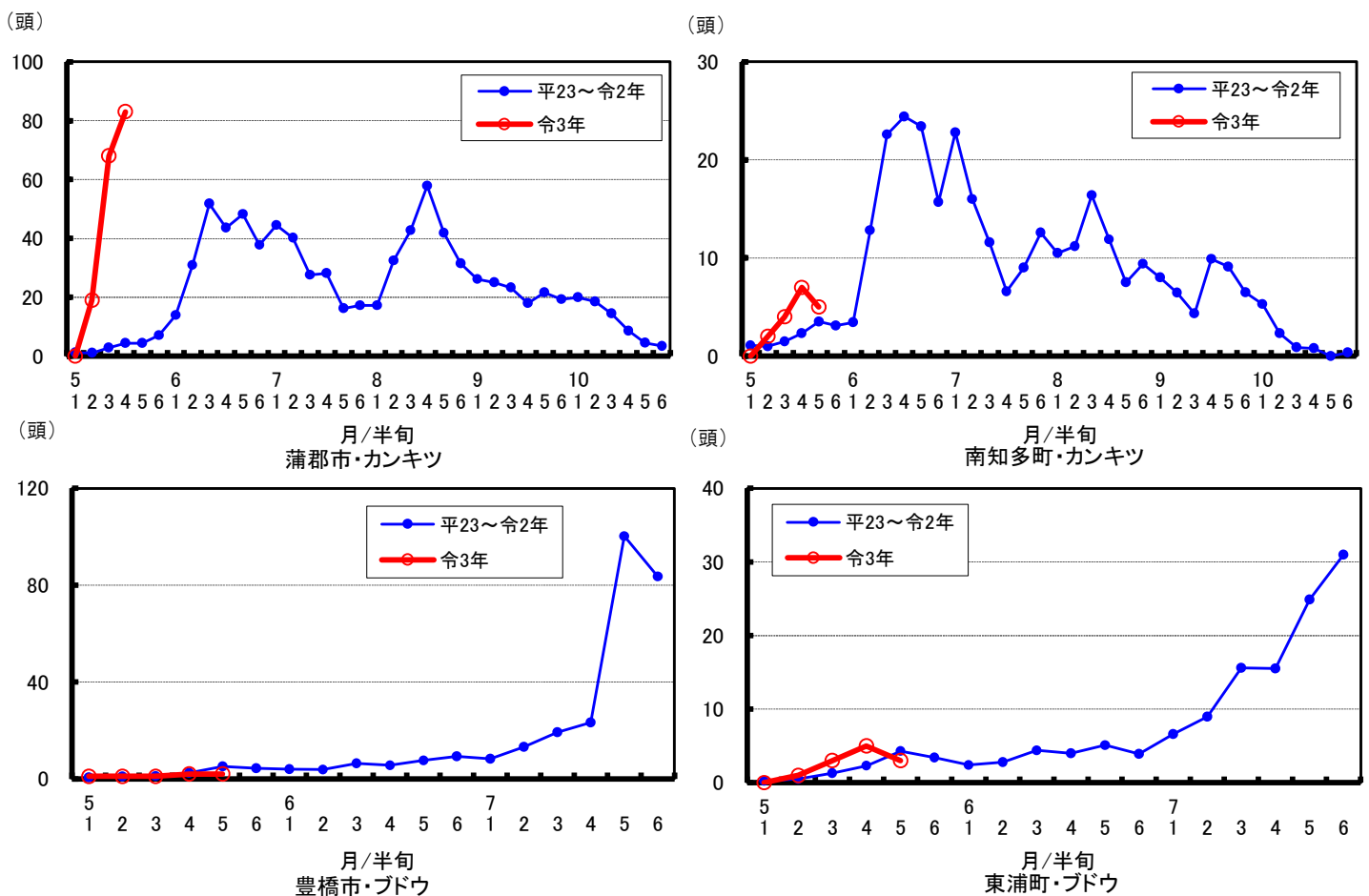


図1 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫誘殺状況

2 チャノキイロアザミウマについて

ウンシュウミカンでは、本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じます（図2）。

ブドウでは、新梢で多発生した本種幼虫が果穂に移動して食害し、果軸が茶褐色に変色、果粒の着色や果粒肥大が悪くなります。

カキでは、開花期は花卉と果実の間、落弁期以降はへたと果実の間で食害し、果実の肥大とともにその痕が果実の表面に現われます（図3）。



図2 カンキツにおける被害

図3 カキにおける被害

本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が植栽されているほ場では被害を受けやすくなります。このため、周辺の寄主植物の発生状況にも注意しましょう。

3 発生ピークの予測と防除（カンキツ、ブドウ、カキ）

本種は成虫の発生ピーク時期が防除適期です。有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第2世代成虫（中山間部に位置する稲武は第1世代成虫）の発生ピーク予測日は、6月7日から6月15日で、前年と同時期から5日程度早いと予測します（表）。発生の多いほ場では、表の成虫発生ピーク時期に防除しましょう。

なお、5月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高いと予測されており、ピーク予測日が早くなる可能性があります。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/15	6/12	6/9	6/7	6/13	6/13	6/9	6/9	6/15	6/10	第1世代 6/9
(前年)	6/15	6/14	6/11	6/11	6/15	6/16	6/13	6/14	6/17	6/13	(前年) 6/9
前年差	±0	2日早	2日早	4日早	2日早	3日早	4日早	5日早	2日早	3日早	前年差 ±0
第3世代	7/7	7/6	7/2	6/28	7/6	7/6	7/3	7/1	7/7	7/4	第2世代 7/9

各地のアメダス平均気温から予測。

5月31日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

カンキツではコルト顆粒水和剤やスタークル／アルバリン顆粒水溶剤など、ブドウではアドマイヤー顆粒水和剤やコテツフロアブルなど、カキではダントツ水溶剤やスプラサイド水和剤などで防除しましょう。ブドウでは、農薬によっては使用時期により果粉の溶脱を生じる恐れがあるので、十分に注意しましょう。